

# 都市再生整備計画(第2回変更)

ふなおかちく  
船岡地区

みやぎ しばたまち  
宮城県 柴田町

平成22年3月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	宮城県	市町村名	しばた 柴田町	地区名	ふなおか 船岡地区	面積	116 ha
計画期間	平成	19 年度 ~	平成	23 年度	交付期間	平成	19 年度 ~ 平成 23 年度

<b>目標</b> <b>大目標：住む人に安心とゆとりをもたらす快適な住環境の整備</b> <b>目標1 脆弱な都市基盤を改善し、交通の利便性・防災性の向上を図る。</b> <b>目標2 住環境を整えることにより、未利用地を減らし宅地化を促進する。</b> <b>目標3 町の花である桜を軸とした桜回廊の創出を図り、ゆとりある良好な居住空間の形成を図る。</b>
---

<b>目標設定の根拠</b> <b>まちづくりの経緯及び現況</b> 当地区は、重要交通拠点であるJR船岡駅を中心として、既成市街地と周辺連担部での区画整理事業による、住宅地供給により市街地の拡大を図ってきた地区であるが、段階的に形成されてきた市街地であることから、市街地拡大に応じた市街地間の交通連絡の不足や都市基盤の整備が十分ではないことから、現在次のような状況が生じている。 道路については、当地区の重要交通拠点であるJR船岡駅と新市街地を結ぶ、都市計画街路の整備が進められ、交通連絡の基盤が整備される一方で、農道として整備された狭小幅員（3.0～3.6m）の未舗装の町道が介在しており、建築基準法に基づく道路後退区間と農地区間で町道の幅員が様々であり、隅切りなどが確保されていないこととあいまって、緊急車両の進入や円滑な消防活動に支障をきたしている。 道路側溝については、昭和40年代に農地として造成・整備された地区で、農業用の用排水路として整備されたことから、土側溝であり、土砂堆積による流下能力の低下や閉塞による家庭排水の滞留が発生しており生活環境の悪化が年々増大している。また、個人建築時に部分的に側溝が整備されているが、側溝断面が狭小なことから、降雨時には一時的な湛水が慢性化している。 本町の主要駅の1つである東北本線JR船岡駅から約1kmに位置する地区でありながら、上記の都市基盤の脆弱さも原因となり、農地や雑種地などの都市的未利用地が多く残され宅地化が促進されていない状況である。 本町は、桜の名所として全国的にも知名度が高く、毎年花見の観光客が多数来町しているが、既成市街地内の町道は車道・歩道幅員が狭く家屋が密接しており、樹木の植栽が困難なことから都市計画街路に設置されている植樹柵に植樹を行い、町の花である桜を軸とした桜回廊の創出を図り、来訪者観光客数の増加を図るとともに、自然と調和のとれた住環境の整備を行う。
--

<b>課題</b> ミニ開発によるスプロール化徐々に進行している地区では、地区住民の生活の質の向上や防災性の向上、未利用地の有効な土地利用の促進を図るとともに、桜回廊の一部として新たな緑の創出を図り、良好な住宅地の形成を図ることが課題である。 ・スプロール化が徐々に進行している。 ・狭隘道路が多く、隅切りの確保されていない交差点のため、一般交通の利便性及び安全性の問題のみならず、円滑な救急活動等に支障をきたしている。 ・道路、排水路など住環境の基盤整備が脆弱である。 ・幅員4.0m未満の道路が多く、建築環境が整っていない。
---

<b>将来ビジョン(中長期)</b> <b>快適で安心して生活できる環境の創出</b> ・柴田町総合計画の土地利用計画において、船岡駅周辺は町の中心地区として位置付け、秩序ある市街地形成と都市機能の向上を図るため、既成市街地については住環境の向上を図り、都市基盤整備を図る一方、新たな市街地については、住宅立地を促進しながら地区計画の導入などにより質の高い住環境の形成を図る。
--

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
建築環境の整備及び生活環境の改善	戸／年	区域内の道路幅員4.0m未満の解消及び側溝整備による生活環境の改善による新規住宅建築確認件数	道路の拡幅整備が完成することによって、改良区間については土側溝からコンクリート側溝に改善されることから湛水による悪臭等の生活改善及び建築環境の整備が図られることにより新規住宅の着工件数の増加を図る。	5	H17	7	H23
生活環境改善に対する住民評価	%	事業の実施効果を測るアンケートによる回答	都市基盤の改善・防災性の向上・生活環境の改善・土地利用の促進などを目標とした本事業の事業効果のアンケート回答者がどの程度、事業実施を評価するかの指標 従前値は、事前アンケートによる住民の現状への満足度。	21	H18	43	H23
人口	人	七作及び新栄地区内に住民票を有する人数	住環境・建築環境の改善・交通利便性等の向上により、建築物が増加され人口も増えることから、土地の有効利用が促進されたかを測る指標。 町全体では、人口微増の状況であるが、当地区内の区画整理事業による整備区域及び道路改修を実施する七作及び隣接する新栄地区では現人数(350人)の18%増の410人を見込む。	350	H18	410	H23
地区内歩行者・自転車数	人/12H (7:00~19:00)	歩行者・自転車交通量調査により算出 (七作地区の一地点における断面歩行者等交通量)	安全な歩行者等の空間の整備により歩行者等の増加を図る。	466	H18	600	H23

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1 交通の利便性・防災性の向上を図る。 緊急車両等の円滑な進入・通行を確保し、防災性を確保するとともに、一般車及び歩行者等の安全を確保する。また、同時に側溝等の改修を行い雨水及び家庭排水等の湛水等を防ぐため、道路の整備を進める。</p>	<p>七作地区道路整備事業(基幹事業) 地区計画による防災性の確保(敷地面積の最低限度・壁面の位置の制限・ブロック塀などを抑制)</p>
<p>・整備方針2 桜回廊の整備と安心・安全なまちづくり 本町は、桜の名所として全国的にも知名度が高く、毎年花見の観光客が多数来町しているが、既成市街地内の町道は車道・歩道幅員が狭く家屋が密接しており、樹木の植栽が困難なことから都市計画街路に設置されている植樹樹に植樹を行い、自然と調和のとれた住環境の整備を図る。 一目千本桜として知名度の高い、白石川堤や船岡城址公園とを連絡する町道に、町の花である桜を植栽し、桜の回廊を創出する。</p>	<p>高質空間形成施設整備事業(基幹事業)</p>
<p>・整備方針3 健全で良好な住環境の育成 土地区画整理事業により造成された新市街地区域については、敷地面積の最低限度・壁面の位置の制限・ブロック塀などを抑制し、植栽を基本としてかき又はさくの構造の制限など建築のルールを定め良好な住環境を育成する。</p>	<p>地区計画による防災性の確保(敷地面積の最低限度・壁面の位置の制限・ブロック塀などを抑制)</p>

### その他

- 交付期間中の計画の管理について
  - ・道路等の整備については、住民等からの公聴等を実施し計画に反映するとともに、地区計画の内容等については町の広報等を利用し、年1回程度お知らせしていく。
- 公共下水道の整備について
  - ・現在、当区域を対象に平成18年度より公共下水道の整備が計画されており、道路改良整備計画と連携を図り、より高質な生活環境の整備と適正な土地両計画の促進を図る。
- 都市計画街路 大沼通線について
  - ・都市計画街路大沼通線は、船岡地区と国道4号線柴田バイパスを最短で結ぶ南北の連絡道路として、平成7年より橋梁及び道路の改良事業が実施され、平成17年度に開通している。
- 船岡南土地地区画整理事業について
  - ・組合施行として、平成7年度より区域面積29.5haの事業が実施され、大沼通線から東西に市街地を横断する、都市計画街路新栄通線の一部を新設するとともに、都市基盤の整備を行い平成14年度に完了している。



都市再生整備計画の区域

船岡地区(宮城県柴田町)	面積 116 ha	区域 柴田町船岡中央1丁目の一部、船岡中央2丁目、船岡中央3丁目、船岡南1丁目、船岡南2丁目、船岡東2丁目の各一部、船岡東3丁目、船岡字七作、船岡字東神山前、船岡新栄3丁目、船岡東4丁目、船岡東5丁目、船岡字並松の一部
--------------	--------------	--



